

2013～2014年度2760地区東日本大震災支援報告

所属クラブ	半田南ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ <u>個人対応</u>
支援期間	平成25年6月 日～平成 年 月 日
支援総金額	金 100万円
補助金の使用	<u>無</u>
支援場所	宮城県山元町(教育委員会)
支援場所の選定理由	半田市が職員の派遣をしているご縁で。
支援活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校再建時の講堂の幕の作成費用(国・県の補助金対象外とのこと) ・平成25年9月に半田市長と共に現地訪問(町長と教育長が2日間対応) ・百聞は一見にしかず、海岸から100メートル位の2階建ての学校で屋上の物置(屋根裏)に避難して全員が間一髪で助かった。津波が、後1～2メートル高かったらどうなっていたか判らないとの事で、学校長の判断が生死を分けたとの事でした。訪問時には、市長と共に地元ラジオ局生放送に参加しました。 <p>資金は、平成25年2月に亡くなった父の遺産の一部です。</p> <p>被災された学校の校長と相談して、国・県の補助金対象外の事業を支援しました。</p>



所属クラブ	一宮北ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ <u>個人対応</u>
支援期間	①平成23年8月7日～8月9日 ②平成26年6月8日～6月10日
支援総金額	金 150,000円
補助金の使用	無
支援場所の選定理由	<p>①一宮商工会議所と仙台商工会議所 七夕まつりを通しての交流会に参加。終了後、レンタカーにて福島南相馬～相馬へ。</p> <p>②花巻空港よりレンタカーで気仙沼、陸前高田方面へ。</p> <p>350年かかって植林された、あの高田松原の美しさが少しずつでも取り戻ればと、奇跡の一本松を見てきたいと思います。</p> <p>勿論、補助金の協力も！！</p>

所属クラブ	春日井ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応
支援期間	平成24年～平成26年
支援総金額	金 300,000 円
支援場所	雨にも負けずプロジェクト ¥100,000円 転輪太鼓東北さくら植樹支援金 ¥200,000円
支援活動内容	雨にも負けずプロジェクトは、福島県原発避難地区の子供達40人を春日井に呼び夏休み春休みに呼びばらばらになった子供達に、交流する支援をしている。 転輪太鼓東北さくら植樹支援金は、津波被害に遭った地域にさくらの植樹をしているプロジェクトに対して植樹費用の支援をしている。

所属クラブ	名古屋空港ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応
支援期間	平成 25 年 10 月 日～平成28 年10 月 日
支援総金額	金 350,000 円
補助金の使用	無
支援場所	宮古市川井地区区界高原 宮古市主催の森林づくりに参画し、閉伊川の源流である区画高原の牧草跡地
支援活動内容	宮古東ロータリークラブ復興プロジェクトの「プレゼントツリー・イン・宮古」に共同で参画し、宮古市主催の森林整備の手助けをし地球温暖化防止、水源涵養、災害防止等の公益機能の重要性について理解を深めるものである。苗木1本3500円(10年間の世話付き)を会員にて、52本、クラブより48本、合計100本350,000円を植樹の支援にあてるものとする。

所属クラブ	名古屋西ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ 個人対応
支援期間	平成25年12月 日～平成26年 2月5日
支援総金額	金 1,560,000 円
補助金の使用	無
支援場所	名古屋市社会福祉協議会・名古屋市教育委員会
支援場所の選定理由	上記2団体の支援内容が物質的支援と交流支援を兼ね備えていた為
支援活動内容	1 名古屋市社会福祉協議会を通じて名古屋市内に避難されている被災家族192世帯に、外食チェーン等で使用できるジェフグルメカード・5000円分を贈呈。 2 陸前高田市と名古屋市の両教育委員会において締結された絆協定に基づき行われている「陸前高田市の子どもたちとの交流事業」の一助として名古屋市教育委員会に活動資金・60万円を贈呈



所属クラブ	名古屋中ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ 個人対応
支援期間	平成26年 3月 17日～平成 年 月 日
支援総金額	金 60,000 円
補助金の使用	無
支援活動内容	<p>'震災を風化させない為に、南三陸町から被災者の語り部の方をお招きし、'3月17日の例会で卓話をしていただいた。</p> <div style="text-align: center;"> <p>卓 話</p> <p>東日本大震災を振り返って</p>  <p>語り部 高橋志保氏 震災後3年、復興は道半ば 3月11日午後2時46分、南三陸町は震度6弱を観測し、7分間ほど強い揺れに襲われました。死者・行方不明者は合わせて800名以上で。人口は1万7,600人弱でしたが、震災後は1万4,000人を切ってしまいました。</p> </div>

所属クラブ	名古屋瑞穂ロータリークラブ
支援活動形態	個人対応(業界団体)
支援期間	平成23年4月 日～平成25年12月 日
支援総金額	清掃用資機材の現物
補助金の使用	無
支援場所	岩手、宮城、茨城 各県の教育委員会の指定する各種学校
支援場所の選定理由	岩手、宮城、茨城 各県の被災地の学校に対する支援活動
支援活動内容	<p>1 全国各地のビルメンテナンス協会を通じて清掃用具を集め、3県の教育委員会を通じて希望の小中高に直接送る。</p> <p>2 平成25年度は、3県の教育委員会を通じて小学生並びに教員に対して3県のビルメンテナンス協会の会員が学校に出向き清掃の実技指導を行った。26年度以後も継続する予定である。</p>
支援活動においての問題点	福島県の被災地には、残念ながら手付かずのままです。
今後の活動予定	平成26年度も引き続き指導、支援を続ける。



震災復興支援

被災学校に清掃用具を！

東日本大震災により被害を受けた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。
安全・快適な建築物の維持管理を事業目的に活動する公益社団法人全国ビルメンテナンス協会(略称:JBMA)は震災後、震災復興支援「被災学校に清掃用具を！」を立ち上げ、全国約3千の会員企業及び関連メーカーに、清掃用具の無償提供を呼びかけ、被災地の学校に種々の清掃用具を送り届けて参りました。

7月5日現在、全国約90社から寄せられた清掃用具は約3万点に上り、10月末まで、岩手、宮城、福島、茨城の各学校や教育委員会などに送付しています。

これに対して被災地の学校からは、たくさんの礼状と、それらの用具を使用し清掃している光景写真も数多く送られてきています。これからもきれいで、清潔な学校で、児童・生徒たちが勉学に励まれることを願うとともに、被災地の一日も早い復旧復興を心よりお祈り申し上げます。

がんばろう東北！ がんばろう日本！



所属クラブ	名古屋大須ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ 個人対応
支援期間	平成 26 年 6 月 7 日～平成 26 年 6 月 7 日
支援総金額	金 未定 円
補助金の使用	無
支援場所	あしなが育英会
支援場所の選定理由	被災した生徒、児童に直接支援をしようとの目的で、あしなが育英会に義援金を託すことにした。
支援活動内容	<p>2760地区内のロータリークラブで活動している合唱団で、名古屋地区ロータリークラブ合唱団連合会を設立し、名古屋でチャリティコンサートを開催して収益を全て義援金として寄付している。今回は全国のロータリークラブ合唱団が集う合唱祭をチャリティコンサートにした。第19回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭であしなが育英会に義援金を贈る。</p> <p>第1回平成23年6月4日(土)於 名古屋市名東文化小劇場 <553,520円を寄付> 第2回平成24年5月24日(木)中京大学文化市民会館プルニエホール <836,630円を寄付> 第3回平成25年5月9日(木)日本特殊陶業市民会館ビレッジホール <715,460円を寄付></p> <p>以後、毎年継続した支援を予定している。現在賛同合唱団は7団体です。 1.コールロータリー名古屋(2760地区15クラブ) 2.名古屋名南ロータリークラブ混声合唱団(名古屋名南) 3.メール・アカンターレ(名古屋東南) 4.コール・カメリア(名古屋名駅) 5.コール・スイーツ(あま) 6.KIRARA(西尾KIRARA) 7.オオスシンガーズ(名古屋大須)</p> <p>今回のチャリティコンサートは4回目となる。</p>
支援活動においての問題点	チャリティコンサートを企画するには、会場の予約が最優先となります。名古屋市内の会場は、殆どが1年前の予約となるため、会場の確保が大変難しい。また、7団体で行っているため、調整が難しい。

所属クラブ	名古屋名駅ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応(同好会)
支援期間	平成25年3月13日～平成25年5月9日
支援総金額	金 100,000 円
補助金の使用	無
支援場所	あしなが育英会(あしなが東北レインボー・ハウス建設資金)
支援場所の選定理由	震災で親を亡くした孤児への支援としてふさわしい
支援活動内容	<p>名古屋地区RC合唱団連合会(主幹:名古屋大須RC)が主催するチャリティコンサートに、クラブの同好会のコーラスグループが参加するとともにクラブ例会などで約2か月間募金活動を行った</p> <p>このチャリティコンサートは年1回の開催で今回が3回目になるが、今後10回まで継続の予定である</p> <p>今回クラブの募金では61,010円、チケットの外部販売で16,000円、同好会から22,990円を拠出し、合計で10万円を連合会に寄付した</p>
今後の活動予定	2013-14年度は全日本RC親睦合唱祭との併催となり、2014年6月7日に名古屋市内で開催の予定である
地区RCにはどのような支援を望まれていますか?	ビジター受付でメイクアップができるよう、引き続き支援いただきたい



所属クラブ	名古屋丸の内ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ 個人対応
支援期間	平成25年11月26日～平成 年 月 日(現地贈呈日)
支援総金額	金 1,016,580 円 (内、被災高校生支援が240,000円)
補助金の使用	無
支援場所	1. 「おひさま保育園」 宮城県石巻市門脇二番谷地8-4 2. 第2520地区被災高校生支援
支援場所の選定理由	1. 昨年度、石巻・石巻南・石巻西・石巻東の各RCのご協力でストーブの寄贈先を探していただいたが、そのうちの一つに今回の保育園があり、現地で交流した際に困っている状況などを伺い、新たな支援の企画を立てた。 2. 地区の活動に協力
支援活動内容	1 おひさま保育園 園児ユニフォーム 夏服・冬服 を寄付 保育士ユニフォーム 夏服・冬服を寄付 2 被災高校生支援金を寄付 どちらも、例会時に募ったニコBOX収益金の30%の中から寄付している。
支援活動においての問題点	遠隔地であるので、密な連絡が取りにくい事。
今後の活動予定	引き続き、石巻の4RCと連絡を取って支援活動を続ける予定
地区RCにはどのような支援を望まれていますか？	現地状況などの情報を提供して欲しい。



所属クラブ	名古屋守山ロータリークラブ		
支援活動形態	個人及びクラブ対応		
支援期間	平成25年9月10日		
支援総金額	金	78,950 円	施設塗料輸送運賃
補助金の使用	無		
支援場所	大船渡市支援物資お届け隊		
支援場所の選定理由	守山区ボランティア連絡協議会RCC会長赤堀輝京様より		
支援活動内容	大船渡市を含む近郊のボランティアの方にペンキ塗りを支援している資材を提供いたしました。		



☆東日本大震災
 復興支援事業
 贈呈者
 有限会社成和様
 支援団体
 名古屋守山
 ロータリークラブ様
 協力団体
 ◎守山区ボランティア
 連絡協議会様
 ◎全国福祉情報研究会様
 ◇NPO 法人 NVN



有限会社
 フナダ様に
 届いた
 成和様提供の
 塗料材料
 大船市内
 各所への
 出庫を待つ
 塗料材料倉

所属クラブ	名古屋錦ロータリークラブ
支援活動形態	個人対応(東海岩手県人会会長としての活動)
支援期間	平成25年7月1日～平成26年4月30日
支援総金額	金 1,638,945 円(東海岩手県人会会員からの寄附を含む)
補助金の使用	無
支援場所	名古屋市立大学看護学部に設立された「陸前高田市枠」により平成25年度に同学部に入学した2名の学生(松野綾夏・佐々木美紀)と平成26年度に入学した2名の学生(黄川田純愛・佐々木帆奈海)に対する経済的並びに精神的支援
支援場所の選定理由	名古屋市立大学看護学部には平成25年度から平成29年度まで「陸前高田市枠」が設けられ、陸前高田市から入学してくる毎年2名の学生に対して、同学部卒業までの4年間の入学金・授業料免除の特典が与えられることが決まった。岩手県と名古屋市により住居費の一部についても援助がなされることになったが、住居費の一部並びに生活費や教材費は個人負担となる。その捻出が学生とその家族だけでは困難であるため、東海岩手県人会会員及び広く市民に対し寄附を呼びかける必要がある。また知遇の全くない名古屋でまだ若い彼らが生活を始めることになるため、精神的な支援も不可欠である。
支援活動内容	<p>① 東海岩手県人会主催の旅行会への招待(平成25年7月7日) 東海岩手県人会主催「初夏の旅行会」(行き先:南木曾温泉)に松野綾夏・佐々木美紀を私の友人として招待。会員との親睦を図ると共に生活面の悩みに付いて相談を受けた。</p> <p>② 岩手県立大船渡高校夏井校長との懇談会を実施(平成25年12月1日) 松野綾夏の卒業した大船渡高校夏井校長は、名古屋市立大学看護学部「陸前高田市枠」の設立につき、岩手県サイドで尽力した方であり、一期生2名のことを案じて来名された。そこで東海岩手県人会役員並びに大口寄付者(県人会会員2名・一般市民2名)及び名古屋市職員1名・夏井校長・学生2名(合計14名)による懇談会を、東天紅(国際センタービル)で開催した。懇談会では、学生が現在の生活や今後の希望について語り、参加者が学生に対する期待や要望を述べ、相互理解を深めることが出来た。</p> <p>③ 名市大ボランティア学生と東海岩手県人会会員の懇談会を実施(平成26年3月5日) 支援学生の1人が名市大ボランティアサークル「はまけら」所属したことがきっかけとなり、名市大学生が陸前高田とその周辺でボランティア活動をするにあたっての情報を必要としていることが判明し、情報提供のために県人会会員有志との懇談会を実施した。参加者は、名市大ボランティア学生8名・教員3名・東海岩手県人会会員8名の合計19名)。会場は名古屋市立大学。</p> <p>④ 第2期生との顔合わせ(平成26年4月3日) 第2期生である2名(黄川田純愛・佐々木帆奈海)およびその保護者と面談し、連絡先を交換して、協力を約束した。会場は名古屋市役所。</p> <p>⑤ 東海岩手県人会平成26年度総会への招待(平成26年4月27日) 第1期生及び第2期生の4名が東海岩手県人会に入会。年会費及びイベント参加費は私が会長として負担する旨を約束。4名が総会に出席し、懇親会に於いて名古屋における学生生活と将来の抱負をテーマに1分間スピーチを披露。会員との親睦を深めた。</p> <p>⑥ 名古屋市立大学看護学部「陸前高田市枠」の学生の生活支援のための募金活動(通年) 県人会会報やクチコミにより、年間を通じて、彼らに対する生活費の支援を呼びかけ、150万円の寄附を集めた。これについては、名古屋市立大学に対し、看護学部「陸前高田市枠」で入学する10名の学生に対し、出来る限り均等になるように支給してほしいとの希望を伝え、うえで寄附を行った。なお、私が過去に名古屋栄ロータリークラブからいただいた活動資金については、現在二年生の松野綾夏が大学院進学を希望しているため、その学費に充てるよう希望し、昨年度より名市大にプールされている。</p>
	<p>① 毎年2名、5年間にわたって入学してくる合計10名の学生について、各々4年間の支援をすることになるため、平成24年度から9年間にわたる長期の支援活動となる。東日本大震災に対する市民の関心は時と共に薄らいでいるため、今後どの程度の寄附が集まるのか先が読めない状況にある。</p>

<p>支援活動においての 問題点</p>	<p>卒業後、彼らが岩手県に戻って医療活動に従事して、はじめて岩手県に対する被災地支援となる。誓約書により、岩手県に戻って医療活動することを義務づけてはいるが、本来は彼らが自らの役割を自覚し、将来の岩手県の医療の中核となることを自ら目指すように導いていく必要がある。そのためには定期的に彼らと会って、より親しくなることが望ましいが、学業やボランティア活動が忙しく、予定していたようには時間が取れないのが不安材料である。</p> <p>②</p>
<p>今後の活動予定</p>	<p>① 募金活動はこれまで同様今後も継続する。呼びかける対象は東海岩手県人会会員。呼びかける方法は、県人会のイベント案内並びに県人会イベントでの口頭での呼びかけ。会員によるクチコミにより、広く市民から募金を募る。学生が経済面の不安なく学業に専念できるようにするのが目標。</p> <p>② 学生を東海岩手県人会の全イベント(総会・旅行会・忘年会が基本)に招待。必要に応じて面談の機会を設け、精神的な不安材料があれば解決のために協力する。彼らに対する会員の期待を正確に伝え、自らの役割に対する自覚を促す。</p>
<p>地区RCにはどのような支援を望まれていますか？</p>	<p>① 学生に対する経済的な支援を希望します。</p> <p>② 学生にスピーチの機会を与えて下さい。学生が卒業後岩手県に戻って、医療の中核になるべく努力するためには、本人の自覚が不可欠です。そのために最も効果があるのは、彼ら自身が被災地の現状や自らの立場について第三者にお話しすることが最も有効だと思います。</p>



所属クラブ	名古屋錦ロータリークラブ
支援活動形態	個人対応(東海岩手県人会会長としての活動)
支援期間	平成25年7月1日～平成26年4月30日
支援総金額	金 110,080 円(東海岩手県人会会員からの寄附を含む)
補助金の使用	無
支援場所	絆協定に基づく名古屋市と陸前高田市の中学生交流に対する経済的支援とボランティア
支援場所の選定理由	陸前高田の中学生の名古屋訪問に関しては、平成23年6月より、「陸前高田の中学生を名古屋に招待するプロジェクト」で実行副委員長として招待計画の立案実行にあたってきた。約2年間の活動を通じ、400名を超える中学生を名古屋市に招待し、プロジェクトは一旦終了したが、平成25年度からは担当部署を市から教育委員会に移し、「絆協定に基づく名古屋市と陸前高田市の中学生交流」として再スタートし、私は理事に就任した。新しいシステムでは、名古屋市による一方的な支援から、両市の相互的な活動に内容が切り替わったが、陸前高田市の財政状況は未だ厳しく、陸前高田市の中学生の名古屋訪問については経済的支援が必要である。また夕食会の実施や名古屋空港への歓送迎にあたっては人手が必要であり、そのためのボランティアを組織する必要がある。
支援活動内容	<p>① 陸前高田の中学生の名古屋訪問旅行への協力(平成26年1月7日～9日) 20名の中学2年生が名古屋を訪問した。東海岩手県人会会員からボランティアを募り、名古屋空港での歓送迎(参加者約20名)を行い、夕食会(会員は5名参加)、名古屋城でのお別れセレモニー(会員は3名参加)に参加した。</p> <p>② 募金活動(通年) 陸前高田市の経済状況が未だ厳しく、名古屋と対等な交流を行うことは自力では困難であるため、東海岩手県人会の会報やクチコミで募金の呼びかけを行った。募金総額4万円については、陸前高田市から来る中学生のために使っていただくよう要望して、名古屋市教育委員会に寄附を行った。</p>
支援活動においての問題点	<p>① 絆協定に基づく名古屋市と陸前高田市の関係は、本来は対等であるべきだが、現実には陸前高田市の経済状況が厳しいため、事実上経済的な援助が不可欠となっている。結果的に陸前高田市の自立を妨げるような支援になってしまわないように心がける必要があり、募金の要請においてもそのことをきちんと伝えなければならないが、だれにでもわかるように伝えるのはかなり困難である。</p> <p>② 被災後3年が経ち、ボランティアが集まりにくくなってきた。陸前高田の中学生達に、名古屋市民に暖かく見守られていることを実感して貰うためにも、なるべく多くのボランティアに歓送迎や夕食会に参加してほしい。呼びかけの方法を工夫して、東海岩手県人会の会員により多く参加してもらうようにするとともに、東海岩手県人会会員以外の方にも広く参加を呼びかけたい。</p>
今後の活動予定	<p>① 次回の陸前高田市の中学生の名古屋訪問旅行は平成27年1月7日～9日に決定しているので、募金活動はこれまで同様今後も継続する。募金先を名古屋市教育委員会にするか陸前高田市教育委員会にするか現在考慮中。旅行に参加した中学生を見てみると皆、小遣いで家族への土産を購入しているが、その費用を捻出するために苦心している家庭があるのではないかと気になり、募金を陸前高田の中学生の旅行小遣いに充ててもらうのも一方法ではないかと感じている。</p> <p>② 東海岩手県人会会員に呼びかけ、会員やその知人友人により、名古屋空港での歓送迎や夕食会、お別れセレモニーの参加者を募り、ボランティアとして協力する。県人会会員以外への直接のボランティア募集も検討中。</p>
地区RCにはどのような支援を望まれていますか？	<p>① 平成27年1月7日～9日の陸前高田市の中学生の名古屋訪問旅行について、名古屋空港における歓送迎やお別れセレモニーに東海岩手県人会が名古屋市民のボランティアを募集することが決まりましたら、広報に協力していただけるとありがたいです。</p>



所属クラブ	名古屋錦ロータリークラブ
支援活動形態	個人対応(東海岩手県人会会長としての活動)
支援期間	平成25年7月1日～平成26年4月30日
支援総金額	金 130,000 円
補助金の使用	無
支援場所	東日本大震災三周年犠牲者追悼式の企画及び実施(平成26年3月11日正午～19時・名古屋中区栄久屋大通公園久屋広場)
支援場所の選定理由	震災から3年が経過したが、被災地復興にはまだまだ時間がかかる。その一方、震災への市民の関心は刻々と低下している。被災者支援の原点に立ち戻り、犠牲者追悼を唯一の目的に、思想・宗教その他あらゆる垣根を取り払って数多くの支援団体が集うことにより、市民の関心呼び戻すことが必要ではないかということから、若林隆之君(東海岩手県人会会員)が呼びかけ人となって実行委員会が立ち上がった。多様な性格を持つ数多くのボランティア団体が参加するため、まとめ役が必要となり、実行委員長には思想的な背景が皆無で、いずれのボランティア団体とも無関係な私がよかろうということになり、実行委員長として活動することになった。
支援活動内容	<p>① 東日本大震災三周年犠牲者追悼式の実施 1500名が参加。被災時刻を中心に20分間のセレモニーを行った。セレモニーは主旨説明・献花・黙祷・宣言というシンプルなもの。その他の時間はキャンドルサービスと記帳・献花を継続。犠牲者追悼に集中するため募金・アトラクションはなし。実行委員会として約30団体、賛同団体として約60団体が参加した。</p> <p>② 運営資金のための寄附の呼びかけ 実行委員会が出来たのが平成26年1月で、私が実行委員長に就任したのが第2回実行委員会ということで、実施まで2ヶ月しかなかったが、第2回実行委員会で資金が不足していることを知り、知人らに寄附の呼びかけをしたところ、すぐに12万円の寄附が集まり、残りは実行委員会のメンバーが会費として支出した(予算総額22万円)。</p> <p>③ 東海岩手県人会・ロータリークラブ・ITC等知人友人を通じての参加呼びかけ 年賀状を出す範囲全てに封書で案内を送付。多数のご参加を得た。</p>
支援活動においての問題点	<p>① 多様な性格を持つ団体が集まって行うところに意義を持つ追悼式であるが、それだけに舵取りの難しさがある。追悼式後の実行委員会で来年も3月11日に実行委員長として追悼式を行うことが決定したため、現在実行委員会規則を作成中。多くの団体がその性格の違いを云々することなく、犠牲者追悼の1点に集中できるシステムを作る必要がある。</p> <p>② 「イベント化しない、ひたすら犠牲者の追悼に集中する」を合い言葉に第1回追悼式を行った。二回目は新鮮さが薄れるため、人集めのためになにかしたくなるのが人情であるが、そのために第1回のシンプルな主張が失われないように気を付ける必要がある。</p>
今後の活動予定	<p>① 平成27年3月11日に4周年の犠牲者追悼式を開催する。</p> <p>② 実行委員会規則を作成し、実行委員会の組織を整える。</p> <p>③ 実行委員会・賛同団体に加入する団体を広く募集する。</p>
地区RCにはどのような支援を望まれていますか？	<p>① 来年の追悼式にも多数の参加をお願いしたい。</p> <p>② 実行委員会・賛同団体・後援のいずれかに加わっていただけると本当にありがたいです(ちなみに今回の後援名義は、愛知県・名古屋市・日本赤十字社愛知県支部・福島県・宮城県・岩手県でした)。</p>



所属クラブ	豊橋東ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応
支援期間	平成25年8月16日～平成25年8月19日
支援総金額	金3,333,848円
補助金の使用	有 RC新地区補助金 補助金額 金783,981円
支援場所	宮城県気仙沼市大島
支援場所の選定理由	かねてより豊橋市内の私立高校との交流があったため
支援活動内容	<p>東三河地域の全高校に声をかけ、11校93名の高校生が参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼漁港でのサンマ初漁の出発式において、豊橋から皆で作って持参した大漁旗9つを掲げ見送りをした。 ・KRA(気仙沼復興協会)の指導の下、気仙沼市鹿折地区内の清掃ボランティア活動の実施。 ・フェリーで大島へ渡り、地元住民の方々をイベント会場へ招き入れ、高校生と一緒にペアを組んでもらい、クイズ大会で盛り上がり、一緒に豊橋発祥の手筒花火を觀賞していただいた。 ・大島内全3カ所の仮設住宅をグループ単位で訪問し、住民の方々と一緒にスイカ割りやおしゃべりなどをして交流をした。 ・語り部のお話を聞き、当時の生の様子を直接聞いた。
支援活動においての問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・東三河地域の全高校に案内をし、第1段階として前回の報告及び説明会への参加募集及び実施、第2段階としてボランティア活動の参加募集及び実施、第3段階として実施報告会を行うため、全行程の時間がかかり、それぞれの準備も簡単ではない。 ・応募者が多い場合、選考基準をどうするのか。 ・片道13時間のバス乗車、暑い時期での活動であるため、車中・現地でのアクシデントに対する準備不足。 ・主に戸外での活動のため天候に左右されやすい。 ・瓦礫撤去などの復興は随分と進んでおり、目に見える形でのボランティア活動がほとんどなくなり、地元住民の方々との交流に移ってきているため、参加者側にとってボランティア活動とし拍子抜けする様子も見られる。
今後の活動予定	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度においても、東三河地域の高校生を気仙沼へ連れて行き、現地高校生との交流を行う予定。 ・5月31日(土):説明会実施 ・8月21日(木)～8月24日(日):支援活動実施
地区RCにはどのような支援を望まれていますか？	・参加者負担とはいえ、学生への負担は少ないので、もう少し金銭的支援が欲しい。



2013 豊橋東ロータリークラブ 社会奉仕事業
「復興支援 in 気仙沼」
東三河の高校生 ボランティア募集

笑顔を届けよう。
 東日本大震災の被災地、宮城県気仙沼市での復興支援活動を行います。
 皆さんの力を結集し復興を助けましょう。
 高校生募集です。

平成25年 **8月16日～19日** 【応募期間】平成25年8月3日(日)～8月20日(日)
※活動期間中に1泊2日は、4月下旬に開催される研修会があります。
 ※申し込み多数の場合は、先着順とさせていただきます。

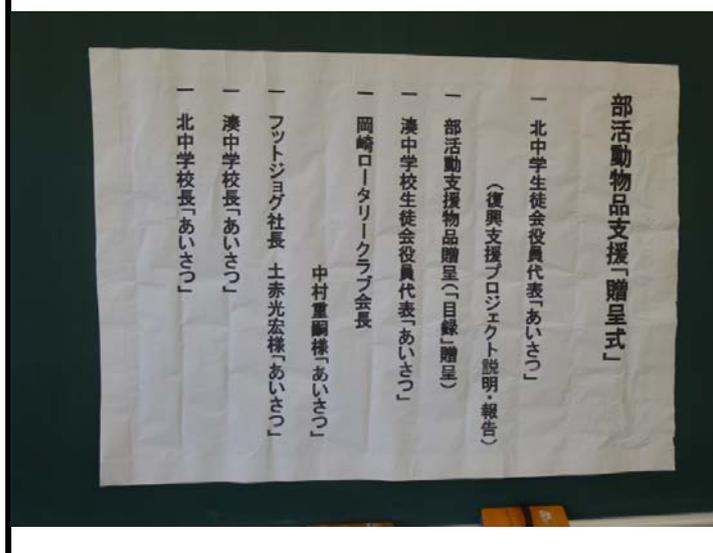
【参加費】2000円(17日の学費は18日朝一早中食代、朝服代、フェリー代が別途必要となります)
※参加費には宿泊費は含まれません。被災地において本人のみの参加(ヤベバスツアー、船乗りに参加)は、参加費を別途必要とさせていただきます。被災地の復興は、被災者の一人ひとりの皆さんのご支援とご協力をお願いいたします。

【参加対象】東三河の高校生、希望者の一般の方(18歳以上)
【参加人数】100名

【行先概要】
 8月16日(土) 1日目の費用回収(バス乗車) (早急は必要となります)・研修開始
 17日(日) 気仙沼市内の復興支援ボランティア活動(食事、少人数で各自行きます)
 18日(月) 夕方フェリーで大島へ渡り、高校生と地元住民による交流イベントの実施、手筒花火大会の開催
※大島泊り(1泊2日)は、1泊2日(18日～19日)の参加費、お土産代、お食費)
 ※夕方フェリーで気仙沼へ、バス乗車前。
 19日(火) 6:00 舟着岸後退場

【お問い合わせ】豊橋東ロータリークラブ TEL: 0522-56-8966
 E-mail: kyokushin@rotaryclub.or.jp FAX: 0522-56-2920
※お申し込みは、お申し込み用紙(お申し込み用紙)を添付し、お申し込みください。お申し込みは、お申し込み用紙を添付し、お申し込みください。
 【事務局】宮城県気仙沼市大島 気仙沼復興協会 TEL: 022-82-2222 FAX: 022-82-2222
 【事務局】豊橋東ロータリークラブ TEL: <http://www.kyokushinrotaryclub.or.jp/>

所属クラブ	岡崎ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ 個人対応
支援期間	平成 25年 8月 26日～平成 26年 2月 22日
支援総金額	金 1,481,025 円
補助金の使用	有 ・RC地区補助金 補助金額 520,245円
支援場所	石巻市立湊中学校 石巻市立大原小学校 石巻市立住吉幼稚園 石巻市立桃生幼稚園
支援場所の選定理由	1)3年前より岡崎市立北中学校と湊中学校への支援を共同でしている。 2)石巻市教育委員会よりの支援先要請をうけている。
支援活動内容	1)石巻市立湊中学校運動部備品を北中学校と共同して贈呈した。 2)湊中、北中意見交換会等を企画し両校の交流を深めるサポートをした。 3)住吉幼稚園へホール暗幕、バック幕レール交換一式を寄贈した。 4)大原小学校へ掲示板クロス貼り替一式を寄贈した。 5)桃生幼稚園へ物置一式を寄贈した。
支援活動においての問題点	1)地区補助金申請年次と支援活動年次が違うため初期段階の計画と実施内容でかなり差異が出てきてしまった。(年度またいで学校関係、教育委員会等の交渉が直ぐに出来ない。) 2)我々ロータリアンの震災に対する意識の風化。
地区RCにはどのような支援を望まれていますか？	支援先地域のロータリークラブとの交流の橋渡しをしていただければ有難いと支援活動を終えてから思いました。



所属クラブ	岡崎南ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ 個人対応
支援期間	平成25年8月2日～平成25年8月8日
支援総金額	金 1,108,810 円
補助金の使用	有 ・RC地区補助金 補助金額 金 326,106 円
支援場所	福島県いわき市
支援場所の選定理由	福島第一原子力発電の事故により、放射能物質の拡散に伴い、多くの子供たちが地元を離れて避難生活をおくったり、外で長時間遊ぶことができなかつたり、行動の自由を奪われている状況があり、岡崎市に招待し、子供たちが以前のように自由に砂場で遊びが出来、自由に外で走りまわれる為を選定した。
支援活動内容	<p>8月2日 歓迎レセプション</p> <p>8月3日 三河別院見学 岡崎花火大会観覧</p> <p>8月4日 懇親バーベキュー&夏祭り例会参加</p> <p>8月5日 自然体験 川遊び</p> <p>8月6日 自然体験 川遊び</p> <p>8月7日 ロッククライミング、蜂蜜しぼり体験</p> <p>8月8日 福島県いわき市へ</p>
今後の活動予定	平成26年年7月24日から7月28日まで 福島第一原子力発電所の事故により、外で遊ぶことのできない幼稚園児・卒園児および保護者、先生を岡崎に招き地元の幼稚園の子供と遊んだり、交流会を開き今回の事故について共に考える機会を作る。



所属クラブ	豊田西ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ 個人対応
支援期間	2012～2013年度より9年間
支援総金額	金 62,000 円 毎年20万円
補助金の使用	無
支援場所	東日本大震災遺児育英資金(桃・柿育英会) 公益財団法人 オイスカ 名取市海岸林再生プロジェクト10ヵ年計画
支援場所の選定理由	東日本大震災で親を亡くした子どもたちを支援するため、「桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金」が2011年5月に立ち上げられ、当クラブも9年間を目標として遺児育英支援を決定しました。 被災して失われたクロマツ海岸林の現状と再興の講演を聴き、同時に名取市の被災農家の暮らしの再建を支援する取り組みに環境保全の重要性を感じ支援協力をしました
支援活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金」に毎年20万円を9年間(予定) ・当クラブを代表して、クラブ会長が被災高校生と手紙の交換をしました。被災高校生に、応援の”寄せ書き”を送りました。 ・東日本大震災被災高校生支援プロジェクト 216,000円(2月) ・5/12(月)の例会にて会員からニコを募り62,000円を支援協力しました。
今後の活動予定	桃・柿育英会へは、2021年まで(10年間)継続して行います。

所属クラブ	岡崎城南ロータリークラブ
支援総金額	金 300,000 円
補助金の使用	無
支援場所	会津若松城南ロータリークラブ
支援場所の選定理由	会津若松城南ロータリークラブは、姉妹提携クラブである為
支援活動内容	<p>会津若松城南ロータリークラブを窓口福島県を始めとする東北地区へ復興の為にご利用して頂く事にした。</p> <p>特に本年度岡崎城南ロータリークラブは、25周年の年度あった為、25周年記念事業として式典の中で先方へ直接お渡しする手だてをとった。</p> <p>用途については、先方のロータリークラブに一任させていただいている。現状190万円の支援をさせていただいた。</p> <p>2010-11年度 100万円 2011-12年度 30万円 2012-13年度 30万円 2013-14年度 30万円</p>
支援活動においての問題点	現場の復興の経過が見えてこずタイムリーな支援が基本的にできない。 従って間接的な支援をせざるを得ない。

所属クラブ	刈谷ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ 個人対応
支援期間	平成25年8月8日～平成26年3月16日
支援総金額	金 5,000,000 円
補助金の使用	無
支援場所	宮城県石巻市 社会福祉法人「輝宝福祉会」石巻ひがし保育園
支援場所の選定理由	宮城県石巻市渡波地区で自らも被災したがそれでも避難所を開設した「輝宝山 洞源院」が、石巻をまた子供の戻れる街にするために私費を投げ打って保育園を作る、という趣旨に賛同したため。
支援活動内容	刈谷ロータリークラブ創立60周年記念事業として新設する保育園への遊具、井戸等寄贈
支援活動においての問題点	今回が4回目の支援活動となり、問題なく活動が行えました。
今後の活動予定	東北地方の小学校を対象に緑化支援活動を予定しています。
地区RCにはどのような支援を望まれていますか？	対象となる支援活動の情報提供をしていただけるようお願いいたします。



所属クラブ	安城ロータリークラブ
支援活動形態	○クラブ対応 ・ 個人対応
支援期間	平成25年11月9日～平成25年11月10日
支援総金額	金 20万 円
補助金の使用	無
支援場所	石巻市役所、女川町役場、女川町支援包括センター 女川町石巻バイパス西・東仮設住宅
支援場所の選定理由	昨年度の活動を引き継ぎ、宮城県石巻市及び周辺地域を選定
支援活動内容	石巻市役所、女川町役場等 支援物資提供 女川町石巻バイパス西・東仮設住宅 うどんの炊き出し等(500食)
今後の活動予定	本年度の活動を引き継ぎ、宮城県石巻市及び周辺地域を選定の見込み
地区RCにはどのような支援を望まれていますか？	復旧から再生に入る被災地のニーズを調査して、復興支援活動を続けてほしい



所属クラブ	知立ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ 個人対応
支援期間	平成 25年 9月 13日～平成 25年 9月 16日
支援総金額	金 1,200,000 円
補助金の使用	有 ・RC地区補助金 補助金額 金 319,176円
支援場所	宮城県 気仙沼大島
支援場所の選定理由	<p>気仙沼大島は宮城県気仙沼市の市街地の対岸正面に位置し、リアス式海岸の一つで陸中海岸国立公園の一部に設定されるなど、「緑の真珠」と言われるほど、自然が豊かな島です。豊かな自然の中で育った海産物など、私たちの住む街にはない自然が待っています。</p> <p>しかし、東日本大震災はその美しい自然を無残に破壊しました。津波の被害だけでなく、気仙沼港の大火災の火が瓦礫と共に大島に流れ、山火が発生しましたが、島中の人同士の協力により、鎮火活動に全力で取り組み、被害を最小限に食いとどめることができました。そうした体験談を直に聞くことにより、人と人のつながりの大切さを改めて思い、また今後の防災意識高揚にもなると思い選定いたしました。</p>
支援活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光案内看板の設置 2. 島民との大交流会での炊き出し 3. 砂浜清掃 4. 参加者が島内の民宿に分宿し、大島での職業体験
支援活動においての問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・現地と距離があるため、打合せ等限られた時間を有効に使わなければ行けない。 ・天候に左右されるプログラムは、対応策をしっかりとっておく必要がある。 ・まだまだ様々なところで支援活動が行われております。支援側相互の情報交換も必要です。
今後の活動予定	<ul style="list-style-type: none"> ・現地にて確認したところ、これからは島民の皆様が自立して生活できる支援を望んでおりました。 今後は、気仙沼大島・東北全域にお金が落せるような、自立支援を予定しております。
地区RCにはどのような支援を望まれていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援 会員の皆様、東北に足を運んでいただけるような事業があると良いのでは。



所属クラブ	三河安城ロータリークラブ
支援活動形態	クラブ対応 ・ 個人対応
支援期間	平成25年7月1日～平成26年6月30日
支援総金額	金 50,000 円
補助金の使用	無
支援場所	陸前高田・南三陸・石巻・東松島
支援場所の選定理由	布ぞうり製作の拠点であるから。
支援活動内容	<p>「ふっくら布ぞうりの会」は2011年3月11日の東日本大震災以来、被災地の支援を続けている団体「ふんばろう東日本支援プロジェクト」の活動がきっかけで生まれました。2011年8月、ふんばろう東日本支援プロジェクトが南三陸で実施した布ぞうりの講習会をきっかけに、「手に職・布ぞうりプロジェクト」がスタート。講習会に参加した数名の方々が布ぞうり作りにハマリ、いくつも布ぞうりを作り続けるうちに、数ヶ月で立派な布ぞうり職人に成長しました。</p> <p>現在、ふっくら布ぞうりの会は陸前高田・南三陸・石巻・東松島を拠点とし、各地にそれぞれ編み手のチームがあります。</p> <p>現在、30名の編み手が参加しています。</p> <p>みなさん、仮設や借り上げ住宅に住み、街は再建されず、いまだに不自由な暮らしの中にいますが、布ぞうり作りを通して新しい仲間との出逢いが生まれ、新しい生き甲斐が生まれました。</p> <p>ふっくら布ぞうりはその名のとおりふっくらとしたやさしい履き心地の新しい室内履きです。美しい仕上がりにもこだわり、ひとつひとつ心をこめて作っています。</p> <p>そして、その完成した布ぞうりの販売の支援を行う事と、布ぞうりの材料になる古Tシャツ集めを行っています。</p>

東日本大震災 復興支援

「ふっくら布ぞうりの会」へのご支援のお願い

